□ 第63回通常総会見学会参加レポート

株式会社サンシャインシティ・ビルマネジメント
取締役施設管理部長　高橋　幸路

2024年6月13日（木）、天候にも恵まれ「通常総会見学会」に初めて参加させていただきました。駐車場事業のみならず、関連する施設を視察し、各社様と交流を図ることで気づきが生まれる事を目的に参加させていただきました。

●6月13日（木）見学会1日目

・麻布台ヒルズ・視察
・迎賓館赤坂離宮・視察
・意見交換会（かわらや）

東京駅鍛治橋駐車場に8：45に集合し、そのままバスで麻布台ヒルズに向かいました。

麻布台ヒルズは、何といっても超高層ビル「麻布台ヒルズ森JPタワー」が、高さ約330m・64階と、日本一高いビルであり、目の前にすると存在感が並外れておりました。

美しい建築空間が第一印象で、画一的などこにでもあるような施設ではなく、緑と施設が調和した広場や曲線的な低層部、特徴的なアート作品など先進的な設計デザインであると思いました。

2023年11月24日に開業し、敷地の約3分の1近くが緑地であり、「Green＆Wellness」というコンセプトで、都心にありながらも、沢山の緑に包まれた環境の中に、オフィス、住宅、ホテル、商業施設、医療施設、文化施設、インターナショナルスクールなど、訪れる全ての方に満足していただく熱意が感じられました。年間来場者数は約3,000万人を見込んでいるとのことでした。

また、開発にあたっては「街づくり協議会」を設立してから30年以上も地権者と向き合いながら協議折衝したとのことで、途方もない努力とパワーを感じました。

その後、駐車場の設備を拝見させていただきましたが、駐車場収容台数は約1,900台とのことで、ここでもまた、規模の大きさに驚かされました。

車番認証システムにより駐車券を発行することなく利用でき、また、ヒルズアプリと連携された精算システムにより各種割引

が適用された駐車料金をWEB上で精算することが可能です。また左ハンドル車も鑑み精算機が左右に設置されていたのは印象的でした。

続いて、迎賓館赤坂離宮の視察を行いました。

迎賓館といえば海外の要人の方々をお出迎えする西洋的建築物というイメージでしたが、単に西洋宮殿というわけではなく、天井絵画、壁には濃淡やぼかしの表現技法が再現された七宝焼や京都西陣製の紋ビロード織など、日本の伝統と格式のある要素が随所に感じられる建物でした。噴水広場には西洋的な青銅式のオブジェがあるのですが、日本的庭園とマッチしてとても綺麗で、外国人の観光客も多く、声をかけられ写真をとらせていただきましたが、西洋出身の方にも感動を与える建物なんだろうと思いました。ただ、館内の写真撮影は禁止されており、残念でしたが施設運営を考えると仕方ないなと思います。

東京の施設見学はここまでで、14：30に東京を立ち18：00から宇都宮にて意見交換会が始まりました。見学してから移動ということで皆様お疲れかと思いましたが、いざ始まってしまえば非常に盛り上がり有意義な時間になりました。

●6月14日（金）見学会2日目

・宇都宮ライトレール乗車
・大谷資料館・視察
・大谷寺・視察

9：25にホテルを後にし、続いて向かった先が宇都宮ライトレールです。宇都宮ライトレールとは路面電車のことで、名称の由来は、宇都宮は「雷」が有名な「都」市なので、「雷都」と呼ばれているそうですが、そこから寄せて「ライト」レールと言うようです。欧州をイメージしたカッコイイフォルムをしていました。

宇都宮市の交通渋滞緩和と少子高齢化による人口減少が予測されるなか、車が運転できなくても人が市内を移動でき、生活していくための公共交通ネットワークを作ることが重要でLRTを導入したそうです。

宇都宮は合併した後に各地域での繋がりが希薄になり、各地域を結びつけ、相互交流を図る目的でネットワーク型コンパクトシティを目指されたとのことです。

地点交通結節点（トランジットセンター）を軸にライトレールによって各都市を結びつける役割を担っています。ICカードといえばsuicaが有名ですが、提携しているのは勿論のこと、地域連携ICカードのtotraというものがあり、こちらはさらに宇都宮市内の地域内交通で乗り継

ぎをすると割引サービスが受けられるそうです。利用率も順調に推移しており、今後は東側エリアだけでなく、西側エリアにおいても延伸の予定だそうです。説明会の後実際に試乗する機会を設けていただきましたが、車高が低く、全くといっていいほど揺れは感じず快適でしたが、駅間が短く驚きました。LRTを積極的に利用していこうという働きかけは行政や企業からだけでなく、地域住民からも出ているそうで、これからの取組みが大事だと感じました。

最後に訪問したのが、大谷資料館および大谷寺になります。

「大谷資料館」は、1919年（大正8年）から1986年（昭和61年）にかけて掘り下げられたうちの一部を公開しており、1979年（昭和54年）大谷石（おおやいし）の採石場跡に設立された博物館です。巨大な地下空間が広がり、まるで異世界の地下宮殿か地下神殿のようです。そこは2万平方メートルにも及ぶ大空間で、深さは30メートル、最も深いところでは地下60メートルの巨大な地下空間で、坑内の平均気温は８℃前後。切り出された石は約1000万本で1本の重さが70kg、まさに地下の巨大な建造物といった感じです。このほか、この幻想的な空間は映画やPVの撮影地としても多数活用されているそうです。展示場には手掘り時代の道具や採掘方法、運搬の移り変わりなどの資料が展示されており、当時のご苦労が感じられました。

大谷寺本尊千手観音「大谷観音」（高さ4m）は、日本最古の石仏で810年（平安時代）弘法大師の作と伝えられています。鎌倉時代に坂東19番の霊場となり、多くの人々から尊崇されているそうですが、最新の研究では、バーミヤン石仏との共通点が見られ、実際はアフガニスタンの僧侶が彫刻した、日本のシルクロードと考えられているそうです。

当時シルクロードを渡ってくるだけでも困難であり、さらに石を掘り出せる技術者が、石の名所である大谷寺に来られるという、正に奇跡的な出来事だと思いました。

また、この寺の門前にある平和観音像は、大谷石の石切り場跡に世界平和を祈り、総手彫りで1948年（昭和23年）から6年をかけて1954年（昭和29年）に完成、1956年（昭和31年）に開眼し、高さ27メートルで末広がりを意識しているそうです。

以上で現地での研修は終了し、帰りは歩き疲れと車内の心地良さでうつらうつらとあっという間に東京に着き、皆様方と解散という流れになりました。

最後に初めての参加でしたが、かけがえのない貴重な経験をさせていただき、心より感謝致します。今回の見学会にご尽力いただいた事務局の皆様、そして総会から見学会まで素晴らしい企画、調整をいただいた全日本駐車協会の皆様ありがとうございました。